

特集：SL運行による鉄道と地域の再生

[大井川鐵道のSL運行と地域の活力創造]

SPECIAL INTERVIEW



島田市長

桜井勝郎

Katsuro SAKURAI

写真提供／島田市
文●茶木 環／撮影●織本知之

島田市の

「大井川を軸とした 地域づくり」と 大井川鐵道

島田市は、平成20年に旧川根町と合併後、新市の都市戦略として、「大井川を軸とした地域づくり」を推進している。24年度の市政方針でも、都市基盤整備と地域内外との交流が重要とした上で、大井川鐵道、特にSLを大井川流域の重要な資源と捉え、鐵道を基軸に観光事業や交流促進事業を次々と展開している。桜井勝郎市長にお話を伺った。

特集：SL運行による鉄道と地域の再生

[大井川鐵道のSL運行と地域の活力創造]

地域内外の交流人口を増やす

——最初に大井川流域の歴史や特色についてお聞かせください。

桜井 江戸時代、徳川幕府は川越し制度といって、大井川には橋を架けずに徒歩での通行と決めました。大雨で増水すると、参勤交代の大名も旅人も島田宿に逗留する。さまざまな文人墨客も長期間逗留し、この地域にいろいろな文化が生まれました。京へ上る、江戸へ下る、東西文化の結節点のような場所となったのです。

長年、この川留めでそれなりの繁栄があったためか、地域の人々の気質はのんびりしています。体質的に自分の方から進んでいかないとこなるので、この地域の魅力的なものも全国に情報発信できないままです。島田市や大井川流域には、魅力的なものがたくさん埋もれています。この流域の魅力を、南北に走る大井川と大井川鐵道にうまく結び付けて、広く情報発信していきたいと考えています。

——桜井市長の就任後、島田市は観光事業に重点を置かれています。

桜井 ええ。こういう時代ですから、地域の人口を増やすのは大変です。島田市は、企業を誘致するには開発条件が整っていない。水が豊富な農業地域ではあるけれども、農業経営は厳しい状況にある。周辺の丘陵地を開発しようとしても、大井川流域には縄文時代の遺跡など文化財があって、それがなかなかできない難しさを抱えています。

結果、観光をメインに情報発信に力を入れて交流人口を増やすことが一番だと

いう考えにたどり着きました。行政が具体的な施策を一つ一つ実現していけば、市民はついてきてくれるし、観光客も集まり、前に進むことができます。

まずは、島田市の玄関口のJR島田駅を整備しよう。駅を整備したら、次はいろいろなイベントをしよう。「はまだ大井川マラソンinリバティ」も「SLフェスタ」も、そこから始まったもので、いろいろなことを仕掛けて地域を活性化しようとしているところです。いまはまだ、その中間ぐらいの段階ですね。

大井川鐵道は地域の財産

——「SLフェスタ」は、大井川流域の市町が共催する大規模イベントですが、どのようなきっかけで始められたのですか。

桜井 観光庁が平成22年度から取り組んでいる休暇取得・分散化促進実証事業「家族の時間づくりプロジェクト」に、島田市が参加して始まりました。

島田市が掲げたプロジェクトのキャッチフレーズは「家族で休んで、地域を元気にする」で、初年度の22年は、3年に1度開催される島田大祭・帯祭りの年だったので、10月の3連休に加えてもう1日、市内の全幼稚園と全公立小中学校を休みにしました。また、市内の企業の理解を得て休業してもらい、地域ぐるみの4連休を創出しました。

その4連休に、家族で楽しく過ごしてもらおうと、さまざまな仕掛けを用意したんですね。その一つが、SL無料乗車体験です。400人の親子の募集に、

1000人以上の応募があったので、臨時列車を走らせ、応募者全員に乗車してもらいました。

この初年度のSL無料乗車体験の反響が大変よかったので、それをきっかけとして、翌23年度からはSLフェスタとして開催しています。

23年度からは財団法人静岡県市町村振興協会からも助成を受け、川根本町と大井川鐵道とで共催し、吉田町も協力してくれました。24年度は川根本町も4連休を創設してSLフェスタを共催しています。

——川根本町には、島田市から共催を呼び掛けられたのですか。

桜井 そうです。大井川本線は、川根温泉側は川根本町までが島田市で、大井川の上流側は川根本町になります。

島田市と川根本町がいろいろな情報交換しながら、島田市から上流へお客さまを押し上げていく。大井川流域を活性化させるためには、連携して、そうした取り組みを進めていかなければと考えています。

24年度のSLフェスタでは、千頭駅でSL3両が横一列に停車した姿を皆さんに披露しました。鉄道写真家の中井精也さんにも来ていただいて、たいへん盛り上がった。その迫力ある光景は全国紙や週刊誌にも大きく掲載されました。全国的に話題になるような企画で、この地域の情報をどんどん発信していきたいですね。

こうしたイベントには開催経費がかかりますが、交流人口を増やすためには、ある程度の投資が必要ですし、必ずいろいろな形で残っていくと思っています。

——この地域にとって、大井川鐵道はどのような存在ですか。

桜井 地元の公共交通機関としての役割もあります。大井川鐵道は観光鉄道として成り立っていると思っています。地方鉄道はどこもがそうなのでしょうが、大変な経営状況にあると思われる中、頑張ってもらって感謝しています。

われわれ島田市も、川根本町も、大井川鐵道は地域の財産であり、文化財であり、大切な観光資源だと思っています。だから、大井川鐵道には今まで以上に頑張ってもらって、行政はそれをもっとうまく活用して交流人口を増やす。全国の皆さんにSLに乗っていただき、島田市の魅力についてもっと知ってもらおう。それが島田市の活性化になり、大井川流域の地域づくりにつながっていくと考えています。



全国紙にも大きく取り上げられたSLフェスタ「SL大集合」



1大井川に架かる蓬萊橋は、897.422 mもの長さの木造橋 2県内有数の湧出量を誇る「川根温泉ふれあいの泉」 3大井川の河跡湖といわれる「野守の池」

——新金谷駅の「転車台」は島田市が新設されたといいました。

桜井 転車台は、島田市が観光施設として整備しました。無償で大井川鐵道に貸与し、維持管理を任せています。

一民間企業のために整備するとなると、市議会がなかなか認めないものですが「とにかくやるしかない」と決断したわけです。転車台整備を担当した市のスポーツ・経済部はユニークな職員が多く、私と同じように柔軟な発想ができる（笑）。私は普段からいろいろ考えて、考へが熟したところである日突然、「よし、やるぞ」と言うんですが、多少、面倒なことでも、「私が責任を取るから一緒にやるろ」と言うのと皆、一生懸命やってくれ

ます。転車台も、そうしたケースの一つでした。

それまで、SLは新金谷から千頭に向かうときは正面運転、帰りはバック運転でした。SLはやっぱり正面を向いて走った方がいいというご意見が多かったんです。千頭駅だけではなく、新金谷駅にも転車台が整備されたことで、ようやく双方向とも正面運転ができるようになりました。

SLが方向転換するのをわざわざ見に来る観光客も多いんですよ。大井川鐵道の方でも、今度はバック運転が珍しくなったので時々サービスでバック運転をしようとか、車両区整備工場見学を開始するなど、鉄道事業者の発想でいろいろ

な企画を考えるようになっていきます。いい効果が出ていると思いますね。

滞在型・回遊型の観光施策を展開

——イベント以外にはどのような観光事業を推進されていますか。

桜井 大井川鐵道の沿線では「川根温泉ふれあいの泉」が人気の観光スポットの一つです。土日はマイカーのお客さんでいっぱいですが、観光バスをお断りしているくらいなんです。ここは宿泊施設がありません。一方、SLのツアー客は、途中駅の家山駅で降りて、他の観光地にバスで移動するケースが非常に多くなっている。終点の千頭駅ではなく、家山駅がポイントになっているんです。

そこで、家山駅から観光バスで移動するのなら、ここに滞在して楽しんでいただくのと、川根温泉の隣にホテルを建設します。1泊しても楽しんでいただける観光要素を増やして、滞在型・回遊性を高めればいい。蓬萊橋や東海道の大井川川越遺跡、ばらの丘公園など、周遊して観光いただける場所が実はたくさんあるんです。

——自治体がホテルを経営するというのは、とても珍しいですね。

桜井 皆さん、驚かれます。国から補助金をいただき、税金も使うわけですから、利用しやすい料金で、できるだけ快適な施設にしたいと考えています。

檜の露天風呂やキッチンが付いた長期滞在用の和室が8室。あとは、上ランクのビジネスホテル仕様にして、大浴場を

つくりまします。部屋数は42室で、宿泊人員は約150人。宿泊料金は市民が1泊5000円、市外の方は6000円程度になる予定です。また、100人ぐらい入場できるホールをつくり、宿泊客の食事の他、結婚式や法事などで市民も利用しやすいようにしたいと考えています。食についても、いろいろ考えていて、山で獲れるイノシシやウサギ、アユやヤマメ、山菜など、地のものを堪能いただく。イノシシ鍋は肉が柔らかくておいしいから、きつとおいしい名物料理になる（笑）。ホテルの近くに食肉センターもつくる予定です。このホテルや食肉センターによって、80人ほどの雇用が生まれます。職を増やして若者の流出を防ぎ、川根地区や伊久身地区をもっと元気にしたい。

理想を言えば、最寄り駅の家山温泉駅間渡駅に千頭駅行きのSLが停車してくればいいのですが、この場所は上りの勾配がきついので停まらない。逆方向の新金谷駅行きなら、下り勾配になるので停車できるんですけどね。ですから、家山駅からシャトルバスを出そうとか、ジープみたいな車で河原を走るのもいいとか、いろいろ考えているところです。ホテルは平成26年初夏の開業予定です。そのときは、SLとうまくコラボレーションして、オープン記念イベントを開催したいと思っています。大井川鐵道にもぜひ一緒に頑張ってもらいたいと思います。

広域交通を活かした交流拠点都市戦略

——先ほど大井川鐵道は観光鉄道として

特集：SL運行による鉄道と地域の再生

[大井川鐵道のSL運行と地域の活力創造]

成り立っているとおっしゃいましたが「市民の足」としてはいかがですか。

桜井 通勤利用が少ないというのが経営的に難しいところでしょうね。旧川根町と合併しましたから、市の中心部と川根地区を結ぶコミュニティバスを運行することもできるのですが、そうすると、鉄道を利用する人が減ってしまう。SLを運行して、それに付随して弁当やグッズを売って何とか維持している大井川鐵道の妨げにならないような形で、地域住民の足を確保していきたいと考えています。大井川鐵道がこれからも継続していくためには、行政も側面から支えていかなければならないと思っています。

——SLの将来性についてはどのようにお考えですか。

桜井 SLの将来は、私は安泰だと思っています。SLは古くなればなるほどいい。こういう時代だからこそ、癒しの場として重要だと思っています。部品が消耗しても、いまの技術で何とか問題は解決できると思いますし、修繕費も高額だと心配されていますが、そのときが来たら、考えればいいでしょう。

SLもそうですが、私は、島田を昔の機関車や電車の宝庫にしたいんです。大井川鐵道に管理をお任せして、乗客増加策をどんどん考えてもらえばいい。子どもたちは鉄道が大好きですから、きっと喜びます。

——島田市は広域交通の拠点となりますか。交流促進に効果は出ていますか。

桜井 島田駅と六合駅についてはすでにバリアフリー化を完了しており、平成25

年度には金谷駅も工事に着手する予定です。これが完成したら、金谷駅から富士山静岡空港へ、15分おきにシャトルバスを運行させたい。これはチャンスだと考えています。空港と金谷はバスで15分と非常に近いので、飛行機で来たお客さんを島田市に呼び寄せたい。

その対策もすでに練ってあって、例えば島田市は全国初のマラソン専用コースが大井川河川敷にある関係で、県内外のスポーツ合宿が盛んに行われています。これをもっと使ってもらおうと、県外の高校や大学チームの合宿には宿泊費用1泊1200円、30万円を限度に補助しています。23年度は約8000人がこの制度を利用しました。また、島田茶・金谷茶・川根茶の3ブランドがあるためか、東京の大学の茶道部も当地で合宿をするようになっていきます。合宿が毎年続けば、次の代につながっていきます。社会人になっても、戻ってきてくれるかもしれない。こういう若い世代の人たちが次々に来るような仕掛けを、島田市はどんどん考えています。

——新東名高速道路が開通し、島田金谷インターも供用開始になりました。

桜井 これもまた面白く展開しています。NEXCOC中日本が開通記念に企画した「大井川SL&ダウンヒルライド」ツアーには、約2000人が参加しました。新東名で来た参加者は、島田金谷IC付近に設置された無料臨時駐車場を利用し、新金谷1千頭間はSLに乗車する。帰路は、大井川沿いをサイクリングしながら戻ってくる。自転車は、大井川鐵道

の協力でお座敷列車に積み込みました。これが大成功でしたので、いずれはオートバイでもやりたいと考えています。

飛行機で来た人もマイカーで来た人も、SLに乗車し、大井川流域を周遊する。こういう企画を大井川鐵道も手掛けるようになれば面白いですよ。

——SLが交流策の核となるのですか。

桜井 島田市をはじめとした大井川流域には、スポーツ施設や見どころ、観光要素がたくさんあるものの、それぞれはあまり知られていない。でも、全部総合して有効に情報発信していって、メジャーになれます。その観光要素をつないでいるのが、大井川鐵道であり、SLなんです。

大井川鐵道の方々も、どんどん積極的になってきているのを感じます。この大井川流域はこれから、大井川鐵道によって地域の魅力がますます深まってくると大いに期待しているんです。

地域活性化は、一つの施策や事業がすぐに結果を出すのではなく、相乗効果を引き起こしていくものなんです。今後も交流策を次々に展開して、地域の潜在的な力を引き出して活性化を図っていきたく考えています。



1 恒例行事となった「しまだ大井川マラソンinリパティ」 <SLフェスタ> 2 島田市商工会のキャラクター「おしまちゃん」も登場 3 「SLふれあい体験」では転車台手回しに挑戦 4 オープニングセレモニーで挨拶を述べる桜井市長 5 新金谷駅を会場に開催された特別企画「SLと綱引きで勝負」